



第16号

H31年3月1日発行

### わたしのあみださま

新潟教区教務所長 藤田信証

門徒推進員の皆様方には、お念仏申しながら生活をされていること、誠に有難く、尊いお姿であります。

さて、皆様方はどういった経緯で門徒推進員になられたのでしょうか。おそらく、ご住職様方からのお誘いがあったり、ご参加され、京都での中央教修に行きませんかとのお誘いがあり、躊躇しながらも参加をし、行ってみれば全国の多くの仲間へ刺激を受け、阿弥陀様の前で誓いを述べ、感動の中に帰郷し、今日に至っているというのが、大半の方々でしょう。少し違う角度から思い返してみてください。

浄土真宗という宗教と、どのようになされたか。生家がそうであった、嫁いだ先がそうであったからいつの間にか。お仏壇の給仕をしていた先代が亡くなつてから。大切な伴侶や両親や子どもを亡くして。など、人それぞれ千差万別でしょう。それぞれのご縁の中で聞かせいただいた浄土真宗のみ教えは、阿弥陀様という仏様は、どんなことであっても、この私を救ってくださるとのことです。しかし、聞き間違えてならないのは、私を抜きに阿弥陀様という仏様はあり得ないのです。

それは、この私はどう頑張っても、お浄土というお悟りの世界に至ることが出来る生き方の出来ない存在であるから、阿弥陀様は『南無阿弥陀仏』と名乗りをあげて、「あなたを必ずお浄土に救

いとります。私に任せて、あなたは安心して自分の人生を精一杯生き抜いてください。」と呼びかけ、働いてくださるのです。

すなわち、阿弥陀様の存在は、この私を救う為だけにあるのです。どこか私の知らないところに阿弥陀如来という仏様がいて、遠い所からあなたを救いますと告げているのではありません。苦悩を苦悩とも思わず、迷っているのに迷っていることがわからず、目先のことに右往左往しているこの私をお浄土という世界に救いとして、お悟りの仏様にするために、阿弥陀仏という仏様になつてくださったのです。

このようにお聞かせいただきますと、いよいよ阿弥陀様のお慈悲が有難く、また頼もしく思えてまいります。門徒推進員となられた経緯も浄土真宗という宗教とであった経緯も、すべて阿弥陀様の救いの働き、『南無阿弥陀仏』に出遇わせていただく縁だったので



## 会長に就任して



元上組 託念寺  
堀井善治（釋頭英）  
中央教修 四六回

門徒推進員の皆さんは、日頃各寺院のお手伝い、各組の事業活動、また各教化団体の役員として活動されている会員もおられ、誠に有りがたいことと思いません。

昨年六月の教区門推協総会に於いて今年度から二カ年間、会長・副会長を元上組が担当することになりました。会長は堀井善治、副会長は若月トシさんと中静幸治さん（会計担当）に決まりました。各組選出の協議会役員の皆さんと一丸となって会の発展に尽くしたいと思っております。会員の皆さんのご支援ご協力よろしくお願いいたします。

役員就任間もない昨年七月七日から八日新潟別院を会場にして、第一連区門徒推進員実践運動研修会を新潟教区門推協が担当して開催されました。対象地域は、北海道から静岡県の一部までの広範囲でした。参加人数は八十七名で、北

海道からの参加者はありませんでした。前年度の小川会長初め役員から研修テーマ及びタイムテーブルを前年度中に作成して頂いてありましたので、スムーズに開催する事が出来ました。前役員の皆さん誠に有難うございました。懇親会では地元門推員は勿論のこと、他教区の門推員からも盛り上げて頂き法友の輪がより大きくなりました。

門徒推進員は個人登録ではありませんが、各組で連絡協議会を組織し、そこで活動することが大切だと思います。身近な仲間と一緒に楽しく活動できます。

年間計画にあります。各組毎担当の別院清掃奉仕、全会員対象の冬囲い、そして、別院常例法座には多くの会員のご参加を役員一同でお待ちしております。

合掌

## 第一連区門徒推進員実践運動研修会

### 私の後悔



与板組 雲外寺  
丸山正義（釋正義）  
中央教修 一八七回

この研修会に参加された方から、中央教修終了後、全国に多くのなかまが大勢でき、住職さんとも打ち解けて話しが出来るようになった等、喜んでおられる話しを聞きました。

私が驚いた事は、門徒推進員になっても連研に多くの方が関わっておられる事、又、仏壮や仏婦、総代として個々の活躍をされておられる事。その中で門徒推進員としての関りに戸惑いを感じておられる方も少しおられました。私はそのことを嬉しい悩みと受け止めております。

話しは変わるようですが、表題の後悔は、全体協議会において私が発言した内容です。連研話し合い法座の臓器移植問題で、なぜ臓器移植が問題になるのかと話された方に、結論めいた話しをしました。まったことです。

私が伝えたかった臓器移植で考えなくてはならないことは、

一、生命の生死をどこにおいて考えるか  
脳死、心臓鼓動有無を死とするか  
しいか、臓器提供者年齢制限

二、移植のために海外に出ていく事、そこには臓器の売買が行われていないか、高額医療費、自国より外国の方が優先されていないか、そこには商売が

成り立っていないか、末端では子ども  
の誘拐等が行われていないか、思いを  
巡らすことが大切であると考ええる。  
私としては、脳死と診断されれば提供し  
ても良いと考えております。又、子ども  
さんのおられる方はいかにあろうとも  
子どものおいのちは助けたいと思うのは、  
当然であらうと思えます。

私の発言は、  
今思うと自分  
自身が考える  
ところであり、  
この考え方を  
相手に押し付  
けることにな  
ったのではな  
いかと、後悔  
しています。  
連研として、  
一番大事にし  
なくてはいい  
ないことは、  
皆さんに考え  
てもらおう事、  
その中から導  
き出されたそれぞれの考え方は、決して  
間違いいではないからです。立場により考  
え方も違うからです。自分の考え方と違



っている人の考え方も受け入れていく、  
それが寄り添う事だと思えます。あの時  
の発言の後悔をもとに、これから「い  
のち・人権」のを中心として考え続  
けようと思えます。

合 掌

## ねことわたし



与板組 隆泉寺  
佐藤秀利(釋求法)  
中央教修一七一回

我が家には二匹のねこがおり、茶とら  
の十三・四才で名はチャトラです。今一  
匹はキジトラです。愛護センター出身で  
九か月の名はハルです。

愛猫家を自負する私ですが、愛猫家と  
言えばメルシーとジェーンの二匹を育  
てているフリーアナウンサーの伊勢み  
ずほさんのお話を「与板組第三回念仏者  
のつどい」(会場・新潟別院)でお聞か  
せ頂く機会にめぐまれました。「キャサ  
ーギフトという生き方」という演題でご  
自身の過去の「告知」「治療」「日常」を

お話頂きました。

みずほさんは二〇一三年に癌の告知  
を受け、死をも意識されましたが、その  
時にそばには彼がいて共に歩んでくれ  
る方であり、一人でないことが心の支え  
となる。治療が色々行われ、二〇一五年  
BSNの水曜見ナイトに復帰されて「待  
つてくれる人がいる」「帰る場所がある」  
この思いが大きな力となった。又、日常  
においては死をも覚悟せざるを得なか  
った時に、今まで見えていたつもりでも  
見えていなかった世界が見えてきた事、  
交流されておられたお一人に演芸家の  
柳生真吾さんがおられ、彼は享年四十七  
才で亡くなり、みずほさんは「またお会  
いしましょうね」と思われている。

これらの事から大切な人の存在(阿弥  
陀様)と帰れる場所(浄土)で「またお  
会いしましょうね」と見えなかった世界  
が見える(阿弥陀様の光)であると私は  
ご聴聞させて頂いたことであります。

みずほさんは「生」「死」を覚悟され  
た時感じた世界は、生死を貫く事柄であ  
ったと思います。感動させられたお話に、  
これからもご聴聞を重ねて行こうと思  
う私の側で、我が家のねこ達は気持ちよ  
さそうに昼寝をしています。

合 掌



## 第2回 離郷門徒の集い

越後ふるさと会IN築地本願寺に同行して



長岡組 西福寺  
中村恒也(釋恒純)  
中央教修二三四回

十二月一日(土)十一時三十分から築地本願寺で地元を離れて関東で暮らす方々とのご縁を結ぶ「離郷門徒の集い」が開催されました。長岡組の「れんけん」の一部として昨年十一月にも開催され、総勢六十名程の参加者であったが、実施直前に藤井組長が怪我のため参加出来ず、その時の懇親会で来年も是非：との事で本年の開催となりました。

今回は各寺の住職と門徒総勢五十名程が参加し、長岡から朝の新幹線で「築地本願寺講堂」に集合。関東在住者で遠方は静岡県浜松からの参加者もあり、開会式に引き続き藤井組長の挨拶・正信偈のお勤めで全員焼香し、木曾隆先生のご法話を聴聞。自己紹介の後、和やかな懇親会に入り笹団子なども添えられ、故郷の思い出に話が尽きませんでした。

この日、本堂では結婚式があった為、結婚式終了後、本堂にて職員より「築地本願寺」の沿革説明を聞かせていただきました。故郷・長岡を離れて関東で生活されている方々にとっても限られた時間の中で、学校の思い出話、かつて同じ町内に住んでおられた懐かしい話などお寺を超えた話にも花が咲き、あっという間に時間が過ぎました。

合掌



## このころ思うこと



長岡組 長永寺  
安井里子(釋願心)  
中央教修一四〇回

今、門徒推進員だよりへの投稿文を書くに当たり、改めて推進員としての我が身を振り返ってみました。今年は身内の葬儀、入院などが相次ぎ落ち着かない年でありましたが、推進員として私は何をして来たのだろうか？

別院・教務所からのご案内にも都合がつかないとか、与板への交通不便の面などで不参加を重ねて来た一年でありました。只々反省と申し訳ない思い一杯であります。改めて中央教修での感動・誓いを思い起こしています。

最近、年を重ねるとは何と悲しみの多いことかとシミジミ思います。大切な人との別れ、また先生と仰ぐ方々の相次ぐ病、夢も希望も見失う程の現実が押し寄せてまいります。この世は「生死の苦海」とお悟し下さるみ教えを深く受け止め感じるこの頃であります。

我が寺ではご住職による「長永寺講座」が定期的に開かれています。昨年は「歎異抄」今年には「親鸞聖人の御一生」来年は「御文章解説」と決まりました。いづれも大変難しく講義は真剣そのものですが、親鸞聖人の御一生には同じく人間として、そのお苦しみ・葛藤はわが身を通し深く感じ得る事が出来ます。これ程のご講義をもっと多くの方々に聴いて欲しくお誘いに尽力致すところであります。

主人が亡くなり早十年、私も八十路となりました。み教えの「俱会一処」「往相還相回向」は私の最も好きな項であります。亡き人をいつも心に抱きつつ、感謝の日々、み光に照らされている喜びの日々を胸に生きて行きたいと願っています。

長岡組の連研も御住職方のご熱意で盛大に営まれておりますが、もともと多くの方々の推進員がうまれますこと念ずるばかりであります。



合掌

## 中央教修同窓生との再会



元上組 明鏡寺  
内藤右一（釋勸信）  
中央教修二五八回

私達、平成二十九年十二月の第二五八回門徒推進員中央教修了者は、総勢二十七名であります。教修最終日の懇親会の席上で同窓会を結成し、第二五八回にちなみ、会の名前を「にこやか会」と称することに決まりました。

私は、世話人の一人として、中央教修では語り尽せなかつた話の続きを是非してみたいと思ひ、皆さんに呼びかけたところ、各寺院の報恩講などで出席できない方を除き、十七名もの同窓と聞法会館で再会することができました。

同窓の多くは、各寺院の役員を務められており、この一年の間も「ぼーっと生きてんじやなかつた」姿をこの目で確認し、大変刺激になり、阿弥陀如来の尊前で述べた「決意表明」のことが、ありありと思ひ出されることでした。

また、同じ方向を向いた信念を持つ友との会話は、自分の至らぬ所を気付かせ

てくれ、様々な示唆に富んだものがあり、時間がたつのも忘れる程でした。

こうして再会を喜び合ったのもつかの間、あつという間に楽しいひと時は過ぎ、またもや語り尽せぬまま会はお開きとなりました。次回は、東京築地本願寺で開催することに決定しましたが、同朋より来年も頼むと言われ、頼りにされていることの有難さと、一年後に同朋に会うという目標を持って心豊かに生きるということの有難さを感じつつ帰路にきました。

今回の同窓会は、共にみ教えを聞く同朋は私にとってかけがえのない財産であり、喜びを感じさせてくれる源であることを気付かせてくれる大変良い機会となりました。深くご恩を喜び、合掌

## お寺と私



元上組 明鏡寺  
内藤三夫（釋道正）  
中央教修一三五回

明鏡寺の石段のすぐ下の家に生まれました。私は、子どもの頃はよく本堂の外廊下

や縁の下で鬼ごっこなどをして遊んでおりました。仕事でも境内にある白衣観音(旧岩塚村の忠魂碑)のお祭りには毎年お手伝いをさせて頂きました。

退職少し前から連研、中央教修とご縁を頂き、二年後の平成十四年からはお寺の役員として鐘楼・本堂の銅板への葺き替え工事を始め、中越地震の復旧工事や完成後の落慶法要などのお手伝いをすることが出来ました。その後、平成二十年責任役員に推され現在に至っております。もとよりその器ではないことは十分自覚しておりますが、前々からお寺の地元集落から選任される慣習とのこと、で仕方なくお受けした次第です。

私にとって門徒推進員とは?と改めて考えた時、自坊はもとより元上組、教区の多くの門徒の皆様方をはじめ僧侶の方々から色々とご指導を頂きながら、今こうして毎日を送らせて頂いていることだと心から喜んでおります。

先の教区門推協の研修会で新しく加入された方から、門徒推進員になったが何もやることがないとの話を聞きました。が、お寺、組、教区・別院の行事への参加、お参りが一番大切だと思えます。更に私は中央仏教学院の通信教育を受講いたしました。学習過程で三年間。ス

クリーニングは富山別院に行き、十人くらいの少人数で講師を囲み楽しく受講したことを思い出しました。

もし、私が連研に誘って頂かなかつたり、又お寺に特別のご縁がなかったら毎日何をしていただろう、特別の趣味がある訳でもなく、せいぜい雑誌程度の本を読んで時間を過ごす事くらいしか知らない私です。

合掌

## 本願寺&大和路の団体参拝



三條組 福勝寺  
大塚京子(釋法城)  
中央教修二五三回

私は、二〇一七年二月一〇日〜一三日の門徒推進員中央教修を受講しました。そして、一年八ヶ月ぶりに本山にお参りが出来る「福勝寺団体参拝の旅」を聞き、このチャンス逃したくないと思いましたが。聞いた時点では仕事と重なり断念。しかし、春の異動でチャンス到来。どうしようかと悩んでいた時に、先輩門徒推

進員さんから「あと一名あなたのために席が残っているよ」と後押しされ、実現することが出来ました。今考えれば、阿弥陀様のお導きがご縁に繋がったと感謝しかありません。

一〇月二〇日から二泊三日の行程で出発。午後三時頃本願寺に到着し参拝。その後住職の説明でゆっくりと本山書院を拝観。門法会館で一泊。懐かしく中央教修時の話も沢山しました。

翌朝、晨朝参拝。響き渡るお勤めの声が体に染み込み煩惱が浄化された思いがしました。朝食後、奈良へ七高僧・源信僧都の生地、當麻寺・伽藍三堂を参拝。真言宗の寺でありながら、浄土宗も同居するという珍しいお寺でした。當麻曼荼羅(觀經淨土變相図)阿弥陀一六相觀と九品往生の姿は圧巻でした。奥の院で昼食をとり、坊守誕生地の浄教寺を参拝。再建された本堂は、きらびやかでした。その後、親鸞聖人の血筋、日野家直系の寺・名称寺に参拝。住職より宝物を沢山見せていただきました。親鸞聖人のご母堂、吉光禅尼御塚を参拝。会員方からここが真正正銘の吉光尼の墓であるとお聞きしました。二日目は学びの多い日となりました。



最終日は、世界遺産の薬師寺です。現在も再建作業中でした。私は、薬師三尊像も素晴らしかったのですが、大唐西城壁画殿にある平山郁夫画伯が三十年の歳月をかけ完成されたシルクロードの壁画は圧巻でした。お陰様で皆様と楽しく美味しい物を食べ、共に学び有意義な参拝の旅となりました。門信徒として日が浅い私は、先輩方とのご縁を深め研鑽して行けたらと思います。

合掌

### 連研ノート



三条組 福勝寺  
川上栄作(釋弘宣)  
中央教修二〇〇回

久しぶりに連研ノートを開いてみました。連研には今から八年前に参加しま



した。用紙にはテーマが色々書いてあり、お釈迦様・み教え・神・浄土・ヤスクニ・他に色々あり、その中で幾つか興味があり何となく参加しました。何とか京都の中央教修まで行ってきました。京都では全国からの方々と出会いがあり大変感動し、良い思い出が沢山出来て良かったです。

まだ全部内容が分った訳ではありませんが、ご縁・お陰様・仏教語など私にとつて勉強になり気づくことも沢山あり、良かったと思いましたが、私は今まで何回か死ぬ思いもりましたが、今日まで運良く生きています。これって何かの縁とお陰様で生かされているんだなと思うようになりました。

今後とも教えや法話を聞き、これからの生活の中で役立たせていきたいと思っています。

又、こんな事も思うようになりました。生んでくれと言った訳でもないが何かのご縁で生まれ、そして死へ向かって行くわけだが、死んでくれとは言わないが人間必ず死んで浄土へ行きますが、私は死ぬ前に人間に生まれて良かったと言つて死にたいです。ずっとそう思っています。私を生んでくれた母に感謝しています。

合掌

### であい



地藏堂組 永了寺  
梅澤京子(釋珠光)  
中央教修二六一回

五年三ヶ月前に夫がお浄土へ旅立ち浄土真宗本願寺派の永了寺様を親戚が紹介してくれました。それが私と「浄土真宗」そして「寺院」との出会いです。ほどなくしてお取越報恩講が寺院で行われる事になりましたが、初めて聞く言葉に私はどうしていいのか途方にくれました。見かねた町内の方が教えてくれ、寺院にいつも一緒に行ってくれます。また出会いがありました。お勤めや作法が全く分らなかったのも、ご住職様が月命日のお参りに来られる度に色々お尋ねしました。後日ご住職様から連研に参加しないかとお誘いがありました。地藏堂組第八期連研に参加して七名の研修者と二名の門徒推進員の方々とお経の読み方や合掌と焼香等の作法について学びました。それから一番教えて欲しかったお仏壇の荘厳について教えてもらい嬉しかったです。時々懇親会が

あり研修会とは違う雰囲気の中で他の寺院のご住職様や他の研修者とお話が出会いがありました。連研を無事終了して今度は三人の仲間と第二六一回の中央教修に参加しました。北海道から鹿児島まで三十九名の方との出会いがあり、参加して良かったと思えました。

示談で「悲しい時は泣きなさい。つらい時は一人で頑張らなくていいんだよ。」と言って下さった私の班のスタッフで、福岡の中川一晃住職、大分の國東信隆住職のお二人には本当に感謝しております。ありがとうございます。今でもその言葉を忘れずにいます。これからも皆様との出会いを大切に精進していきま

合 掌

### 自分の思い



地蔵堂組 浄専寺  
中嶋道子(釋信清)  
中央教修二六一回

皆さん初めまして。私が小学五・六年生の頃は、雪も多く玄関先に落とし穴を

掘ってコケるのを大笑いで楽しんでいました。明治生まれのお爺さんも亡くなりお婆さんの毎朝お勤めのお経を読む声を聞いてきました。嫁ぎ先でもいつも朝はお経のテープが回っていて私の耳に残っていました。誰に誘われた訳でも無いのに新聞チラシで地蔵堂組に連研がある事を知り、入れてもらったのが始まりです。

地蔵堂組第八期、二〇一六年九月〜二〇一八年二月まで新人七名、門推員二名で始まり、勝敬寺・永了寺・浄専寺三名で京都中央教修第二六一回に参加しました。朝六時から夜九時過ぎまで一日が長い、どうなるの?第二六一回DVD作成の為にいつもカメラが回っていて緊張もピーク!五十名中三十五名災害の為に来られなかった方もおられました。帰敬式で釈〇〇、決意表明式で多くの出逢いを頂きこのご縁を大事にします。

十月二十六日に門徒推進員となり初めて地蔵堂組日帰り研修旅行に参加しました。

勝敬寺八時出発。上越市柿崎「浄福寺」↓「国府別院」↓「親鸞聖人御流罪三十五歳一二〇七年竹の内草庵」↓「居多ヶ浜」↓「八角堂」↓「恵信尼公廟所」へ行きました。

ある住職様から住職にはお参りの他に様々な仕事(建物や庭の管理、悩みや相談の相手等)があると聞きました。私に出来るお手伝いをお寺さまと一緒にして行きたいと思えます。

合 掌

### 連研修了に思う



新潟組 真称寺  
村山誠一(釋建法)  
中央教修一九二回

二年かけて十三期連研を修了された八名の方々に、組長より修了証が授与され、新たな門出となり無事修了する事が出来ました。皆様には中央教修への受講を呼び掛け、僧侶とともに御同朋の社会をめざす協力と運動をお願いしました。「親鸞聖人のみ教えに喜び、念仏者として心豊かに歩み社会に貢献していく事」で修了いたしました。

連研の話し合い法座のテーマについては次の通りで、連研ノートの中から前期・後期と二期にわたり長丁場をクリア



し、自らの生き方の確立を目指し、自他ともに心豊かに生きてく事を互いに確認したようです。

連研の途中で他方地域へ出かけ、各寺院への参拝も兼ね、六十周年を迎えられた有縁講に参加しご聴聞させていだいた事、また、高田地域の本山浄興寺の由緒「宗祖親鸞聖人御真影」の由来を聴き、「頂骨」が安置されている事等も知り、聖人のご遺徳を偲ばせていただき、念仏に遇えた喜びを身に感じられたひと時でした。

いま一つは、平成三十年七月にオープンした上越歴史博物館研修で、「差別をゆるさない人権感覚と差別解消の意識を向上させる目的」について研修しました。当問題に対しては、連研ノートでも問いのテーマとして載せられ話し合い法座に何度も話されているもので、如何に解消に取り組んでいるかを実感し、更に自らの取り組み課題であるというところを改めて確認することが出来ました。

その後、会館内で高田四百年の歴史を観覧させていただき、地域の成り立ちを知る貴重な研修会であった事を感じています。

これからも連研が継続され、一人でも多くの方に感動と仲間を得て欲しいと

思います。委員・スタッフの方々、お疲れ様でした。次回も協力し活動していきたいものです。  
合掌



【連研修了式】



【有縁講】



【本山浄興寺】

## 門徒推進員中央教修を受講して



巻組 教願寺  
二宮忠興(釋宗道)  
中央教修二六一回

祇園祭が数日後に行われる京都の街は異常気象により連日猛暑が続いていました。早朝より蝉の音がうるさいほど鳴き、一層蒸し暑さを感じさせます。聞法会館のドアを開け中に入れば額の汗がスーと引き、外の暑さとは違い別世界です。この環境の良さのもと、第二六一回門徒推進員中央教修が七月十三日より三泊四日の短期間で七月十三日より三泊四日の短期間でしたが、北は北海道、南は鹿児島と全国各地より三十九名の受講者が集まり行われました。新潟からは七名の方が参加しました。

受講者は各班に分かれ担当スタッフ(各寺院より派遣された僧侶)のもと話し合い法座を中心に色々の問題について教修しました。帰敬式は晨朝参拝のあと本堂に集まり厳肅な中で行われ、ご門主様よりお剃刀を受けま

した。法名を拝受した翌日教修が終わり、いよいよ決意表明です。

参拝会館で照明を落としたり荘厳な雰囲気の中、阿弥陀様の前で一人一人が決意表明を行います。北海道から南の地方へと順次発表がなされいよいよ順番がきました。事前に何回か練習をしてきたのですが、緊張のあまり途中で言葉を失い頭が真っ白になりしばし沈黙、どうにか法名を名乗り終わりました。格好をつけ普段使っていないよそ行きの言葉で表現しようとした結果、自分を見失いその様な事態になったのではないかと。有りのままの自分を見つめ精進して行きなさいと阿弥陀様からのメッセージであったと思います。

最終日の茶話会では、各々班ごとのテーブルに集まり歓談し、参加者全員が来年の七月に再会する事を楽しみにそれぞれ帰途に向かいました。

合掌



## 巻組門推協研修会への思い



巻組 長光寺  
梨本重雄（釋重願）  
中央教修一九七回

「チコちゃんに叱られる」というテレビ番組を見ました。常識はうのみにせず、検証してみなければ本当はどうかは分からないということを問いかけています。

もともと仏事や聖典は、一般人からすれば極めて難解な学術論文か又は研究書です。自らの思い込みで受け入れているかも知れません。せっかく有る門徒推進員連絡協議会です。同じ思いを持つ人同士の学びの場、情報交換の場としてあるものとして見ればそれに越したことはありません。「知るは楽しみ」ということと協議会の機能発揮になればと研修会を行いました。

研修としては日々の暮らしや仏事で親しまれている「正信偈」です。知っているようで知らない存在です。深く知る事は出来ないにしても、概要を知ることが出来ればと講義のテーマとしてお願

いしました。今回と次回総会での連続二回の講義です。

今回は開催日が十二月八日（土）十五時～十七時、会場は西蒲区巻甲【安養寺】、講師は巻組万栄寺住職丸山文雄様、参加者は門推員と僧侶で二十名余りでした。「正信偈」はもともと独立した聖典ではなく、「教行信証」という親鸞聖人の書物に納められている讃歌であり、正しく信じて人生の支えとすべきものと理解しました。

「知るは楽しみ」、二回と言わずこの先継続出来ればと思っています。講義終了後は会場を移しての情報交換会、いわゆる懇親会です。この場で講義について話し合われたかは不明ですが、巻組研修会の現状報告です。

次回二回目に多くの皆様から参加して欲しいと思います。そして楽しみにしています。

合掌

## ★第1連区門徒推進員実践運動研修会「懇親会」より

